

Q : 宇野港宇野地区についてどういう形で利用されているか

凡例： ○ 緑地 ○ ふ頭用地 ○ 交流厚生用地 ○ 交通機能用地 ○ 都市機能用地

【宇野港駅、駅周辺】

- 宇野地区イベントが掲載された情報誌を配布（年数回）
- クルーズ船寄港時イベントポスター掲載（年数回）

【交流厚生用地】

- 音楽イベント開催、盆踊り開催

【第1緑地】

- みなとオアシス宇野マルシェ開催（年3回、来場者約2千人）
- 清掃イベント集合場所（年1回、募集人員300名）＊R6年度は、宇野港周辺、築港商店街エリアを清掃
- 美化呼びかけの看板設置＊宇野港緑地一帯に7基設置

【第2緑地】

- 清掃活動（年2回）

【第3緑地】

- たまの港フェスティバル開催（年1回2日間、来場者約3万人）
- クルーズ船のおもてなし活動（年数回）
- クルーズ船寄港時イベントポスター掲載（年数回）
- 清掃活動（年2回）

【第3ふ頭】

- 外航船からの荷揚げ作業

※注：清掃活動は、港湾緑地中心に港全体・周辺で実施されている。

Q：将来、宇野港宇野地区がどうなってほしいか

凡例：○緑地 ○ふ頭用地 ○交流厚生用地 ○交通機能用地 ○都市機能用地

【宇野港駅・駅周辺】

➢ アーティスティック・綺麗なコインロッカー
(無料)

【ふ頭用地：フェリー関連】

➢ 案内窓口のあるバス待合施設

【ふ頭用地：フェリー関連】

➢ 水族館

【ふ頭用地：フェリー関連】

➢ フェリーと旅客船の相互待合ターミナル

【第1緑地】

➢ 土産・観光案内・切符売り場等が入る複
合施設

【産業振興ビル】

➢ 産業振興ビルの活用方法の検討（「観
光センター」に用途変更等）

【第3緑地】

➢ 定期的なイベントや野外コンサートが常
時できる施設
➢ 水族館

○地図上の丸囲いの
着色は現在の土地
利用の区分を示す。

○吹き出しの囲いの
着色は求められる
土地利用の区分を
示す。

Q : その他のご意見①

● 観光・賑わい面の機能強化について

- 宇野港が目指すべき姿は観光港であるべきで、そのためには**宇野港全体を開発**する必要あり。
- 電車で移動されるインバウンド需要をふまえて、**宇野駅から宇野港までの一体と思えるようなデザイン**が必要。
- **駅と港を分断する道路を観光客が影響なく移動**できるようにする。
- 玉野市ならではの素材を活かした**ストーリー性あるコンテンツ**の拡充。
- 直島と協力して、**現代アートの聖地**をつくる。
- 瀬戸内海と本州を繋ぐ“ゲートウェイ”として、**世界中から訪れる人々に快適性や利便性を提供**できること（アートサイト直島の門前町的展開）を第一に考える。
- 観光地としての宇野港の魅力アップを図る上で、明確な**食の名物**が必要。
- 宇野・直島の海外での知名度に比較して、**国内での知名度**が低い。これを改善する必要がある。
- 海外からの観光客が多いなか、外国語の看板や案内も設置されておらず歓迎している印象がない。改善が必要。
- **滞在箇所の拡大**（カフェ、瀬戸芸と連動したまものづくりなどの体験施設）。
- **朝や夜間の観光素材開発**（港のライトアップイベント、朝市の開催など）。
- **フェリーや旅客船から見た宇野港の街並み**を、他にない独特な美しい風景にしていく。
- 大きな「レガシー」よりも、**毎日でも管理が行き届いている「港」**が重要。
- 宿泊施設（ホテル、グランピング施設）
- 飲食店、食事とお土産を購入できる**シンボリックな直売所**
- 魅力ある店舗、色々な人が買い物する店舗（ユニクロ等）
- 「宇高航路の街」としてフェリー・連絡橋の遺構、モニュメント等
- 観光船の運航

Q : その他のご意見②

● 周辺地区との連携の強化について

- ものづくりの街として、**工場見学**などを考える。
- 周辺の店舗、施設への案内の充実により、通過点ではなく、**目的地の1つとして観光客が立ち寄り、周辺地域が賑わうような取り組み**があってほしい。
- 単に「港」だけでなく、その**周辺地区の回遊性、活性化**もあわせて考える。
- クルーズ船の受入についても、港周辺にとどまらず**クルーズ客の行動範囲・人数・嗜好を想定**しマーケティングに基づく戦略的かつ継続性のある手法に転換し、地域経済効果や持続的な地域の発展につなげる。

● まちづくりの進め方について

- そこに「住む」ひと、**地域生活者の意見**を入れて、確認をしながら整備を進める。
- 住民の声を集めて、どのような街にしたいかのコンセプトを決定し、**優秀な芸術家の卵**を集め、互いに利用あるかたちで整備を進める。
- まずは、利用者の意識・行動・ニーズをデジタルデーやアンケートにより丁寧に調査（**マーケットイン**）し、その結果に基づいて施策を構想すべき。
- 地域の**DMO**を中心として地域・広域の関係者が協力する新たな体制づくりと必要な予算の確保。
- 地元の若年層が、地域に誇りを持っていない。開発にあたっては、地元の活性化につながる点も重視すべき。
- 県と市が積極的に協力し、縦割りではない開発が実現すること。

● アクセス機能の強化、交通サービスの強化について

- **船舶チケットのデジタル化、列車と船舶の接続改善**。
- **安価なレンタカー**などが手軽に利用できる仕組みをつくり**市内回遊**を促す。
- 無料の駐車場、立体駐車場、ヨットの係留場所